



とうきょう すくわく プログラム

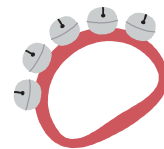
こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム

ってなに？

「とうきょう すくわくプログラム」は、幼稚園や保育所において、
子供たちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、
学べるよう応援する取り組みです。

取り組みを通じて、子供たちの自己肯定感や思いやりといった
豊かな心の育ちをサポートしていきます。



夢中になって遊び学ぶ

すく
すく

すべての乳幼児の

伸びる・育つ

×

わく
わく

好奇心・探究心

を応援する幼保共通のプログラム

楽しく、みんな一緒に!



とうきょう すくわくプログラム

はこちらからご覧いただけます。

とうきょう すくわくプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。



「非認知能力」の育成等、 乳幼児の成長・発達をサポート



好奇心を持つ
きっかけを増やす

考えを広げる

考えを深める

すくわくプログラムはどんなことをするの？

安全安心な環境のもと、子供たちが興味・関心を深められそうなテーマを園で設定し、好奇心を持つきっかけを増やしたり、考えを広げ、深めたりする取り組みを行います。

テーマに関する子供たちの
考えやイメージを
引き出すための問いを考え、
素材や道具を準備し活動を行います。

テーマ例： 光 色 自然 音 泥遊び 絵本 など

例
〇〇って
なあに？



楽器を使い
音の振動を
感じるなど

例：音をテーマとした活動の様子

豊かな心の育ちを応援

乳幼児期は、
「非認知能力」を培う
大切な時

非認知能力とは

自己 にかかわる
心の力

- ・自尊心
- ・自己肯定感
- ・意欲
- ・粘り強さ

社会性 にかかわる
心の力

- ・心の理解能力
- ・共感
- ・思いやり
- ・協同性

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	明日葉保育園 大山園
日時	1月～3月

1. 活動テーマ

<テーマ>

いろいろな色や道具を使って作ってみよう！描いてみよう！

<テーマ設定理由>

色鉛筆やクーピーなど様々な画材を使って塗り絵をしたり、廃材を使って製作をしたりして遊んでいた。その中で、今まで知らなかった色の名前を知ったり、濃さの違いに気づく姿も見られるようになった。廃材遊びの中でも様々な材料があることを知り、試行錯誤しながら組み立てる姿が見られている。そのような姿を受けて、さらに豊富な画材を用意することで色遊びが充実するのではという思いがあった。

2. 活動スケジュール

- 筆、クーピー、色鉛筆などの画材を置くための棚を購入
- 保育室に棚を運び入れ、製作や塗り絵に必要な物品を棚の中に設置
- 用具を使う際の約束事を子どもたちと確認し、遊びたい時に自由に使えるようにする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材や道具】

- ・筆、クーピー、絵の具、色鉛筆、画用紙、折り紙、塗り絵の台紙、新聞紙、鉛筆削り、テープカッター、スタンプ、ローラー

【環境の設定】

- ・季節にあった塗り絵を随時印刷し、ファイルに挟む。
- ・子どもが色の違いを感じながら選び取れるように、色鉛筆や画用紙は寒色と暖色に分けて入れておく。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・絵の具を使って画用紙に好きな絵を描いて遊ぶ。
- ・カラーチャートを見ながら色を混ぜたり、好きな色同士を混ぜると何色になるのか興味を持って混色してみようとする。
- ・廃材ボックスに入った箱や緩衝材などを組み合わせて、家やごっこ遊びで使う道具などを作ったりする。
- ・折り紙を使って昆虫や乗り物、生き物などを作ったりする。
- ・スズランテープを好きな長さに切って三つ編みを作り、髪の毛につけたりして遊ぶ。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

・製作用の棚が整ったことで、以前から自由に使えていたクーピーや色鉛筆に加え、絵の具を使って遊ぶことが増えた。

・筆を洗った水が使った絵の具の色によって変化することに気づく。初めは色を意識せず使った色を混ぜていく中で色の変化を楽しんでいたが、徐々に自分の作りたい色が出てきて「服と同じ色作ってみた！」などと言いながら色水作りを楽しむようになった。

・イメージ通りの色が作れず悩む姿があり、子ども同士で何色を混ぜたらその色になるのか話し合っていた。赤と青を混ぜると紫になることを知っている子どもの話から、他の色同士を混ぜたら違う色ができることに気づく。

・カラーチャートを見る中で、混ぜる色の割合が変わると混色して出来た色の割合も少し変わること気がつく。「赤を多めに入れるといいかな」や「こういう色を作りたいからこのくらいの割合で色を混ぜたい」という発言が増えていった。



・廃材の箱に紐をつけてバッグにしたり、家の模型のようにして中に紙で作ったベッドなどを置いたりしていた。

・持ち運びができるケースにスズランテープや両面テープなどを入れたことで、自分の好きな場所で製作ができるようになり、スズランテープを編んだりして遊ぶことが増えた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・廃材ひとつとっても形状や大きさで分けておくことで、廃材遊びの中で取捨選択がしやすくなって遊びの幅が広がることを実感した。
- ・パレットや画用紙の上で混色を楽しむという意図で絵の具や筆を用意したが、筆を洗いながら水が混ざっていく様子に気づき、水を使って色を混ぜるといった遊び方に発展したのは意外だった。
- ・秋頃は微妙な色の違いを気にする子が少なかったが、今回の経験を経て色の濃淡やわずかな色のニュアンスの違い、色の名前の違いなどに気づく子が増えた。
- ・寒色と暖色の違いに気づいた子は、似た色同士でグラデーションを作ってみたりする姿が出てきていた。以前は見られなかった姿が増えていることに気づいた。
- ・両面テープや養生テープなど普段あまり使うことのない道具に興味を持つ姿も見られ流れている。テープの粘着強度を知る機会にもなっていた。